

2025 年 5 月 24 日
13:00～17:00

繊維学会 第 715 回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事

辻井敬亘、濱田仁美、増田正人、村瀬浩貴、中澤靖元、永田謙二、末信一朗、上高原浩、
氏家誠司、内田哲也、武野明義、道信剛志、花田朋美、木村睦、巽大輔、香出健司、
清水宏泰、東城武彦

監 事 大田康雄、土田亮、小原奈津子

欠席理事

松葉豪、櫻井伸一、高崎緑、大松沢明宏、神山統光、出口潤子、増森忠雄、山崎睦生、
小泉聡、森下美由紀、石澤仁志、竹中幹人 (順不同、敬称略)

会 場 対面開催 (会場: 京都大学東京オフィス 新丸ビル 10 階 大会議室 A)

理事 30 名のうち、出席理事 18 名、監事 3 名の出席を確認し、定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は対面にて開催し、理事の意思表示は発言や挙手にて決議することを確認した。続けて、辻井会長が議長となり第 715 回理事会の審議事項と報告事項へ移った。

2. 審議事項

1) 会員入退会について・・・<資料 1>

5 月 20 日 (火) 現在の会員数の詳細 (正会員数 961 名 (正会員 897 名、名誉会員 16 名、永年会員 48 名)、学生会員 385 名、維持会員 9 団体、賛助会員 88 団体)

・高齢や退職などに伴う理由での退会者が年度末に増加し、入会者数を上回るスピードとなった。

・学生会員は小島基金のサポートもあり、順調に増加傾向である。

・特に年次大会での発表を見据えての入会や進学に伴う新規入会者が目立った。

・学生会員には、ぜひ卒業後に正会員としても存続してくれることを願う。

【審議結果】

入退会報告について、維持会員増減なし、賛助会員 1 社入会、正会員 15 名入会 (16 名退会)、学生会員 14 名入会 (9 名退会) について異議なく承認された。併せて、理事各位へ会員増強についての協力が求められた。

2) 2024 年度 事業報告書承認について・・・<資料 2>

【審議結果】

別紙 2024 年度 事業報告書が読み上げられた。誤字、年号の誤りなどが指摘され、修正することを前提に報告内容について異議なく承認された。併せて、本年度に主だった活動がなかった 3 研究委員会委員長への確認と 2024 年度支援金の取扱い、次年度支援金支給についての再検討が指摘された。本件については、運営担当副会長、財務担当副会長に一任いただくことで承認いただき、総会までの至急対応事項とすることとなった。

3) 2024 年度 決算報告書承認について・・・＜資料 3＞

・ 4 月 26 日（土）監査委員会開催し監事承認

【2024 年度正味財産増減計算書】

【経常収益】

受取会費：正会員 8,410,200 円、賛助 6,527,500 円、維持 2,467,500 円

受取会費合計：17,405,200 円（昨年度比△ 583,230）

【事業収益】

学会誌：定期購読 2,106,945 円、JFST 2,243,597 円、学会誌広告 1,660,000 円

（昨年度比 購読・JFST 投稿料△ 324,425 円、広告料 242,600 円）

学会行事：年次大会 7,504,360 円、秋季研究発表会 4,179,320 円、講演会 1,277,000 円

ISF2024（創立 80 周年記念国際会議） 25,823,750 円、支部事業 414,468 円、

出版事業 152,258 円、研究委員会 1,393,677 円

雑収益：利息・寄付金 167,073 円

事業収益合計：64,327,648 円（経常収益計に対する昨年度比 22,358,075 円増）

【経常費用】

事業費：44,546,441 円

管理費：13,929,985 円

経常費用合計：58,476,426 円（経常費用計に対する昨年度比 10,957,085 円増）

【一般正味財産期首残高】 81,416,261 円

【一般正味財産期末残高】 87,267,483 円

【正味財産期末残高】 87,267,483 円（昨年度比 5,851,222 円増）

【2024 年度財産目録】

【流動資産】

手元現金有高：本部 229,916 円、支部 1,242 円、研究委員会 296,566 円

預貯金：本部・支部・研究委員会 36,070,494 円

流動資産合計：36,598,218 円

*昨年度末の流動資産合計は 29,620,802 円（昨年から 6,977,416 円増）

【固定資産】

基本資産：1,000,000 円

特定資産：60,283,933 円

その他固定資産：984,584 円

固定資産合計：62,268,517 円

流動・固定資産合計：98,866,735 円

*昨年度末の資産合計は 92,403,702 円（昨年から 6,463,033 円増）

【流動負債】

前受金（会費・年次大会参加費）：6,975,820 円

預り金（職員社会保険料・所得税）：669,862 円

流動負債合計：7,645,682 円

【固定負債】

職員退職給付引当債務：3,953,570 円

負債合計：11,599,252 円

【正味財産】 87,267,483 円

*昨年度末の正味財産は 81,416,261 円（昨年から 5,851,222 円増）

*昨年度に続き、顧問税理士ならびに、監事から通帳の統合についての指摘あり。

監査委員会において、口座の統合をより一層進めることが承認された。

【審議結果】

2024 年度の決算報告内容について、異議なく承認された。また、通帳の管理についても、適宜統合や廃止することでより効率的な運営を目指すことについても承認された。

なお、支部・研究委員会の財産目録資料から、研究委員会活動の停滞が見られる研究委員会に多くの財産（繰越金）があることについて、違和感を感じるとの指摘があった。支部に関しては、一定程度の繰越金があることは運営上、仕方のないことと思うが、（特に活動が停滞している）研究委員会については、今後、繰越金の取り扱いについて検討が必要ではないかとの意見があった。辻井会長からは、研究委員会内規に照らし合わせ、研究委員長とも相談の上、運営方法を検討する旨が伝えられた。

4) 退任理事承認と 2025 年新理事（交代）承認について

・退任理事

ユニチカ株式会社 香出 健司 氏

三菱ケミカル株式会社（現：株式会社ソアロン）山崎 睦生 氏

東洋紡エムシー株式会社 増森 忠雄 氏

王子ホールディングス株式会社 石澤 仁志 氏

K B セーレン株式会社 清水 宏泰 氏

・理事交代に伴う新理事

東洋紡エムシー株式会社 北川 義幸 氏

王子ホールディングス株式会社 阿部 一行 氏

K B セーレン株式会社 平佐多 久晶 氏

【審議結果】

ユニチカ株式会社、三菱ケミカル株式会社については、維持会員退会に伴う理事退任により交代理事はいないことが、辻井会長より説明された。本件については、異議なく承認された。また、理事交代に伴う新理事 3 名についても異議なく承認された。

なお、香出理事からは今後も個人の正会員として、引き続き学会活動への関わりは維持したい旨、語られた。

3. 報告事項

1) 繊維系三学会合併協議について

・合併協議会開催について（4 月 8 日（火））

・辻井会長から第 8 回合併協議会に関する報告と進捗並びに、財務グランドデザインの更新などについて説明がなされた。

・学術の中長期戦略案への追加募集への応募について

(合併の有無に関わらず) 3学会の若手を中心に編成し、繊維分野からの応募を検討することが提案された。交流促進や相互理解にもつながるのではないかと期待される。意向表明: 8月1日(金)、応募締め切り: 10月1日(水)

・続けて理事によるフリーディスカッションが行われ、各位から様々な意見が述べられた(理事コメントについては別紙の通り)。

2) 各委員会からの報告について

① 運営委員会

(村瀬運営委員長)

・研究委員長会議

日時: 6月12日(木) 12時~13時 タワーホール船堀 407 会議室にて開催予定
意見交換、次年度支援金の支給など

・[小島基金] リカレント教育支援制度について

本年度(2025年度) 募集締め切りが6月30日(月)

社会人・公設試験機関の社会人 Dr.からの応募者を引き続き募集中
理事への協力依頼

② 将来構想委員会

(村瀬運営委員長)

・将来構想委員会・編集委員会連名での学会誌アンケートを実施

・289名(会員全体の1/3程)から回答あり。

・途中経過として完全電子化へ賛成が51.4%、自分は不要だが希望があった会員へのみ配布に賛成が36.1%、合計して87.5%が電子化に賛成する回答であったことが運営委員長から報告された。引き続き、回答結果をまとめ、学会誌編集委員長とも相談の上、情報公開していくことが伝えられた。また、J-Stage上で学会誌が閲覧できることを知らない会員も多く、こちらについても、周知の徹底を今後検討してゆく。

③ 国際連携委員会・・・<資料4>

(木村委員長)

・観光庁・国際学会の開催支援「学会における国際会議誘致開催促進事業」
次世代繊維研究者・技術者のネットワーク構築のための国際会議への補助金について説明された。国際会議件数がアジアの中でNo.1になること、世界の中でも5位になるべく目標を定め大学関係者だけでなく、学会や関係先からの応募を広く募集していることが伝えられた。補助金が700万円であることから金額も大きく、活動の活発化にもつながることから応募が奨励された。

④ 企画委員会

(濱田委員長)

・企画委員会報告(4月7日(月) オンライン開催)・・・<資料5>

・2025年度繊維基礎講座

日時: 7月31日(木) 8月1日(金) オンライン開催

参加登録開始: 近日中募集開始

参加登録費: 企業会員(維持・賛助) 24,000円、大学・官公庁会員 17,000円

大学・官公庁団体（15名まで）25,000円、
企業団体（維持・賛助5名以内）48,000円、学生会員 3,000円、

<https://www.fiber.or.jp/jpn/events/2025/basic.html>

・高校生研究発表会

日時：11月15日（土）ハイブリッド開催

会場：東京農工大学（東小金井キャンパス）

参加登録受付中、SSHのホームページへも募集案内掲載

<https://www.fiber.or.jp/jpn/events/2025/student/index.html>

3) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部（支部長 松葉理事）

・2025年繊維学会秋季研究発表会

日時：2025年10月27日（月）～28日（火）

会場：山形テルサ（〒990-0828 山形県山形市双葉町1-2-3）

② 関東支部（支部長 中澤理事）

・2025年年次大会

日時：2025年6月11日（水）～13日（金）

会場：タワーホール船堀（〒134-0091 東京都江戸川区船堀4丁目1-1）

展示：17件（過去最高の展示企業数）

6月11日（水）懇親会、12日（木）ポスター賞表彰式・若手交流会、

13日（金）総会（研修室）15時より

・2025年度繊維学会関東支部講演会

東京農工大学以外の会場にて開催を検討中

③ 東海支部（支部長 永田理事）

・第38回東海支部若手繊維研究会（開催予定）

・2025年度繊維学会東海支部講演会（開催予定）

・2025年色材分析講座（協賛）（開催予定）

・色材アドバンスセミナー2025（協賛）（開催予定）

④ 北陸支部（支部長 末理事）

・令和6年度先端技術研究会報告

併催：福井大学繊維・マテリアル研究センター

開催日：2025年3月18日（火）

参加人員：32名，主催：福井大学繊維・マテリアル研究センター

内容：先端技術研究会は講演2件，研究発表会はポスター形式の研究発表20件

・令和7年度繊維学会北陸支部学術普及講演会

開催日：2025年4月17日（木）

会場：福井県工業技術センター

参加人員：71名，主催：繊維学会北陸支部

内容：講演4件

・令和7年度北陸支部役員会

開催日：2025年4月17日（木）

会場：福井県工業技術センター

⑤ 関西支部（支部長 上高原理事）

- ・第46回関西繊維セミナー（開催予定）
- ・第40回関西繊維科学講座（開催予定）
- ・関西繊維科学賞授賞式および、受賞講演（募集予定、開催予定）
- ・関西支部事務局の検討について

⑥ 西部支部（支部長 氏家理事）

- ・第53回夏季セミナー・・・＜資料6＞

日時：2025年9月4日（木）～5日（金）開催

会場：別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ）

- ・第62回化学関連支部合同九州大会（開催予定）
- ・第40回繊維学会西部支部講演会・見学会（開催予定）
- ・2025年セルロース学会西部支部・繊維学会西部支部合同セミナー（開催予定）
- ・第10回繊維学会西部支部若手講演会（開催予定）

⑦ 研究委員会関係について

- ・先端繊維素材研究委員会

第66回 先端繊維素材研究委員会（AFMc）公開ミニシンポジウム

豊かな社会につながる機能性繊維

日時：2025年6月20日（金）ハイブリッド開催（京大・化研、zoom）

- ・超臨界流体研究委員会

第2回国際超臨界CO₂染色加工シンポジウム

日時：2025年5月23日（金）～5月25日（日）

会場：中国・青島

4) 編集委員会からの報告について

① 繊維学会誌

- ・編集委員長より、滞りなく発行準備が進められていることが報告された。

② 論文誌 JFST

- ・JFST 編集会議

日時：2025年6月12日（木）タワーホール船堀 304 会議室

- ・JFST ISF2024 特集号募集に関する進捗報告

理事会時点での応募数が少ないため、ISF2024 特集号の募集は9月30日（火）まで延長することとした。

5) その他案件

① 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・＜資料7＞

辻井会長、事務局より協力依頼

② タワーホール船堀について

2027年秋以降から2028春を目処に改修予定

2028年年次大会の会場としての利用は可能な可能性あり。ただ工事期間の延長などにより未確定でもあり、継続して別会場の検討が必要

③ 今後の理事会日程について

【理事会】

2025 年 7 月または 8 月 臨時理事会（予定）

2025 年 9 月 20 日（土）オンライン開催

2025 年 11 月 15 日（土）ハイブリッド開催（＊オンライン開催から変更あり）

2026 年 1 月 24 日（土）2026 年 3 月 21 日（土）オンライン開催

【総会】

2025 年 6 月 13 日（金）タワーホール船堀 研修室

④ 今後の学会行事担当について

	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年	2029 年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部	西部支部
秋季研究発表会	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部	関西支部

⑤ 会長選挙について

【会長選挙の実施について】

・2024 年 9 月の理事会にて会長選挙実施について検討開始

・2024 年 11 月の理事会にて方針と実施案について検討と議論を行い、方針決定

実施方法：会長候補者一次推薦

・支部推薦

（各支部 1 名以内、支部監事による支部推薦委員会での審議を経て、支部長より推薦）

・正会員 20 名による推薦

・推薦者多数の場合は、推薦委員会を開催し、候補者を 3 名に絞る。

・推薦者にはマニフェストを書いてもらった上で、会員の直接投票により、会長の次期候補者を決定する。

投票方法：ハガキ、オンラインによる投票

・現在会員情報の移行中で間もなく運用を開始する、新たな会員管理システム（TCS 社）を利用し、会員個人のページからの投票が可能

・従前のハガキによる郵送（投票）に加え、オンライン投票が可能になり、手続きがより簡便になる。

会長候補者決定：

・会長候補者が決定後、マニフェストに書いていた活動を実施する上で必要な、理事会構成員を決定し体制を強化できるようにする。（企業理事や支部長など、ある程度の「当て職」枠はあり）その際、会長候補者が主導して選考するが、何らかの委員会を組織して、構成員の選考が妥当かどうか、学会としてチェックできる仕組みを作り、次期体制を含めて検討を行うこととする。

前回 理事会での意見

・3 名に絞る必要はないのではないか？

・候補者が出てこなかった場合はどうするのか？

・辞退者が出た場合にはどうするのか？

→（回答）

- ・推薦者が第一次候補者として残った場合は、必ずマニフェストを出してもらう
- ・最終の会長候補者になった際には、引き受けていただく覚悟で推薦してもらう
- ・会員への周知を徹底し、相応しいと思われる方を推薦いただく。（理事会の中からの推薦もあり）
- ・しっかりした候補者が出てきてこそその直接選挙、見識をもって、コンセンサスを高めていくことも重要
- ・本日の理事会で会長選挙の実施の方向性を承認いただき、2025 年定時総会にて会員各位へご報告したい。
- ・7月または8月の臨時理事会において、会長選挙内規案を提案し、実施に向けて進めていきたい。

【理事意見と検討結果】

- ・学会活動に理解を持って始動いただく為には、被推薦者は正会員であるべきと考えるが、被推薦者は正会員であるべきか否か、法務関係に確認を行う。
 - ・被推薦者は正会員であることを内規で示すことが可能か、また、被推薦者となるには会員在任期間が何年以上とすることが定められるかどうか（1年以上、または3年以上など）についても法務関係に確認を行う。
 - ・直接選挙の場合、支部活動を通して被推薦者の人物像が明らかになっていることから、支部推薦も重要と考える。
 - ・マニフェストに学会運営のポイントとなることを書いてもらうことで、会員がより期待する、会員の声を直接反映できる学会運営をしてくれそうな候補者を選ぶことが可能になる。
 - ・内規の整備が必須（急務）
- 上記確認と準備が間に合わない場合は、総会における「会長の直接選挙実施」についての報告は行わず、7月または8月の臨時理事会での決定後、会員へは、学会誌への差し込みやホームページなどで広く実施することの周知を行う。
- 本日の意見を含め、今一度、執行部で実施方法や内規案制定の検討を行う。

4. 監事コメント

【大田監事】

会員の入退会の報告があったが、繊維学会だけでなく、大学でも言えることだが、会員数（学生数）の減少が懸念事項である。これからの時代に必要とされる学会として、どういう価値、どういう人にどういうサービスを届けられるかを考える上で、3学会合併検討も手段の一つではないか。テクニカルな部分だけでなく、何を提供できる学会であるかの中身の部分の議論が、更に進むといいのではないかと。また、研究委員会の運営の透明度向上とガバナンスについても、今一度見直しをされてはどうか。

【小原監事】

本日の学会名についての議論は、皆様の発言はごもつとも感じた次第である。反対意見についてクリアしていくうえで、様々な提案があったのはよかった。学会名は感情論で、

気にしない人は気にしないし、気にする人はとても気にする。繊維学会に入っていない人たちは、合併により「私たちは吸収されるのか」と感じるだろうし、繊維学会で長年活動してきた人たちは「日本」とつくことに抵抗がある方もいらっしゃることを考えてのゼロベースの提案だと理解している。一方、事務局の2拠点体制は感情論ではなく、メリットとデメリット、経済的なことも大きいことは勘案した上で、人事的なことから直ぐに1拠点は難しくとも、ここ数年できちんと判断すべきである。特に、長期的には学会の経済や運営にもかかわる問題であることから、合併可否判断をする際に、一拠点にしていく方針を明らかにした方が、会員の皆様には納得いただけるのではないかな。

研究委員会も時代と共に変わっていくので、活動をしなくなったということは、あまり必要でなくなったとも言える。新たに生まれるものもあれば、解散するものもあるなど、きちんと選別をしていくべき。

【土田監事】

合併協議に関しては、他2学会がどれほど「日本」とつけることにこだわられているのかどうかによっても、今後の議論も変わってくるのではないかな。一番大切なのは、名称ではなく、「今後一緒にやっていく」という考えを相手に理解してもらった上で議論を進めていくことではないかな。研究委員会の事情によって異なると思うが、活動が何年も低調なのであれば、活動の見直しが必要ではないかな。継続して、今年も高校生研究発表会の開催は素晴らしい取り組みだと思う。

以上